

平成 28 年 度

事業報告書

社会福祉法人 福岡県母子福祉協会

大手門保育園

1 平成28年度 事業報告について

(1) 事業概況

①事業活動

ア. 管理運営

- (ア) 新年度説明会及び入園式等で、保育園の保育目標や保育方針を伝え、保護者が安心して子どもを預けられる子育て支援施設として運営に努めた。
- (イ) 平成27年度よりこども子育て支援新制度が施行され、保育時間が月曜日から土曜日まで7時から18時までとなり、延長保育も保護者の就労状況に応じて1時間を実施した。保育内容は健康管理に配慮し子どもの情緒安定を図り、保護者の就労支援及び育児支援を行った。
- (ウ) 保育園内外の研修に積極的に参加し、保育内容や家庭環境の多様化・社会構造の複雑化に対応できるよう職員の専門性の向上を図り自己研鑽に努めた。
また、今年度から年間通しての研修テーマを設け、保護者と一緒に子どもの課題解決のため、アンケート調査や検討会等を通して研修を深めている。
- (エ) 健康管理や衛生管理は職員共通の認識を持ち一人ひとりの子どもに対応し、子どもの心身の健康状態や疾病等の把握のために、定期的に健康診断や歯科検診・尿検査等を行い、その結果を記録するとともに、保護者に連絡し、日常生活に活用できるようにした。また、アレルギーへの対応・SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防・研修や協議会への参加をすることで被虐待の早期発見などに努め、子どもの健康に関する保健計画を作成し、一人ひとりの子どもの健康の保持及び増進に努めた。
また、保育士が感染症の媒体とならないようチェックリストを活用し、自己の健康管理・手洗い・衣服等の衛生に留意しながら保育を行った。
- (オ) 安全管理については、自園の園舎・園庭の危険箇所の点検をし、安全対策のために職員の共通理解や体制作りを図った。
また、災害や事故発生に備え、園内外での避難訓練の実施やマニュアルの作成・保護者への緊急連絡体制等を整えた。各災害などのマニュアルを作成し、職員共有認識のもと保育園内外での危機管理の強化を図った。
- (カ) マイナンバー制度が始まり、個人情報取り扱いが一段と厳しくなる中 保育園入園申込等の書類にも細心の注意を払い、適切な取り扱いを行う。また、保育園利用者(保護者)に対して「苦情申出窓口」の設置・第三者委員の周知徹底を行うと共に、利用者からの苦情・相談などにも速やかに対応できる体制を整え、福祉サービスの質の向上・社会的責任を果たせるように取り組み、安心して子どもを預けられる子育て支援施設として運営に努めた。
- (キ) 中央区の要保護児童支援地域協議会への参加や、保護者・家族関係・育成の背景などを把握、考慮しながら虐待防止に努めた。

イ. 乳幼児の保育について

- (ア) しなやかな身体づくりと豊かな感性を育て基本的生活が身に付けられるように乳幼児期にふさわしい場所や環境を整え、五感を通して心身の発達を図った。
狭いながらも園庭の畑にて季節ごとの野菜などを栽培・収穫し、食教育に関心を持たせた。
また、近場である舞鶴公園、大濠公園、西公園など日頃の散歩で四季折々の花々を観たり触れたり季節の移りかわりを楽しむ自然体験を行う。年 1 回の遠方へのじゃが芋掘り遠足は子ども達にとって貴重な体験のひとつになっている。
- (イ) 小規模保育園、縦割り保育形態の利点を生かし、保育園生活の中で相手を認め合い共に育ち合う小さな集団社会を経験することでコミュニケーション力を培った。
- (ウ) 子ども自身が、自分で自分の活動を選び、自分のリズムで納得いくまで繰り返し活動できるモンテッソーリ活動を保育の一環として取り入れ、具体的な経験を通して基礎的な生活習慣を身につけられるよう保育を行った。また、子どもが興味あるものを見つけ自分で成長する力と学ぶ意欲を育てていった。
- (エ) 本年度はひとり親家庭 15 世帯の他にも家庭支援事業の対象家庭が 3 割以上になった為、対象家庭に対しての支援活動の対応を全職員間で再認識をしていった。
また、園児の日々の園生活の姿を知らせ、育児相談に応じたり家庭訪問を実施し 家族環境や成育歴等、子どもや保護者の背景に留意しながら支援を行った。
- (オ) 本年度障がい児の受け入れはなかったが、支援を必要とする子どもがいることで、一人ひとりに対応できるように職員の専門研修に積極的参加し保育にあたった。

ウ. 地域との交流について

- (ア) 隣接する老人施設を定期的に慰問し、一緒に歌や遊戯等触れ合い活動を行い異世代交流を図ると共に、お年寄りに親しみや尊敬の気持ちが自然と芽生えるように活動内容に配慮した。
- (イ) 今年度は地域からの行事招待などが増え、積極的に参加することで保育園や園児を知ってもらい、地域ぐるみで支援できるような体制作りの連携を図った。また、舞鶴保育園との交流も毎年行なうようになり、共に幼児教育現場の情報交換を行った。
- (ウ) 保育園の出入り業者への勤労感謝訪問を実施し感謝する気持ちを育て自分の将来の仕事に夢や希望、勤労意欲を持たせた。
- (エ) 保育園周辺の清掃を行い礼儀・奉仕心などを育成しながら環境問題にも関心を持たせた。また、地域清掃を行うことで育児支援機能を持つ開かれた保育園として周知させ地域事業の一環として未就園児対象の子育てサロンを実施した。
- (オ) 簗子地域の人権尊重推進協議会に在籍し、地域の人権研修参加や地域の児童育成や要保護世帯への支援を行うなど地域活動を積極的に行った。

(カ) 保幼小の連絡会においては就学前や卒園した子ども達の学校生活の様子などを把握するために連絡を密にし、子どもの健康育成の向上に努めた。また、学校行事には出来るだけ参加し、子どもたちの近況を知るよう努めた。

② 施設・設備の改善について

(ア)園舎の引き戸など不備の手直し修理やクロスの張替えなどを行った。

(イ)厨房の LED 電気への取替工事を行った。

(ウ)押入れの棚の増設工事を行った。

(エ)未満児クラスのトイレの窓の改修工事を行った。

(オ)給食業者の関係で貯蔵庫が必要になり、冷凍冷蔵庫の取替を行った。

(カ)子育て支援室の音響機器の破損に伴い、新規の音響機器を購入した。

(キ)調理員のトイレの改修工事を行った。

28 年度事業実績報告書

1. 在籍人数

区 分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	以上児	合計
28 年度 4 月 1 日	10	13	14	43	80
延べ人数	120	156	168	526	970
月平均	10.0	13.0	14.0	43.8	80.8
29 年度当初	10	13	14	45	82

2. 階層区分

階 層		A	B	C	D
世帯数	4 月 1 日	2	25	11	42
	9 月 1 日	2	20	6	51

・ B 階層：市県民税非課税世帯 ・ C 階層：市県民税のうち所得割非課税世帯

3. 延長保育実施状況 28 年度 (利用人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人 数	20	25	30	26	25	23	22	25	25	28	23	32	304 名